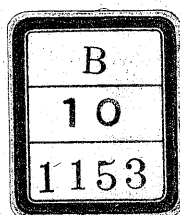


自大正十四年三月
至昭和十九年三月

福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書目録

自第一輯
至第十五輯

福岡県教育委員会



編者の言葉

一、「福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書」は、大正十四年第一輯に始まつて、昭和十九年第十五輯までが、出版された。敗戦後のどさくさもあつたことではあるし、今日、この貴重な報告書の揃つて保存されているところは、案外に少ないのではないかと思はれる。実は、発行当局である県（今では教育庁文化課）自体が、完本の整備に苦心している有様である。そこで、せめてものことに、目録だけでもあれば、当課にとつても、本県の文化財に関心の深い人士にとつても、多少は役立つであらうというので、急に思ひたつて作つたのがこの一編である。もとより簡単に過ぎ、不備不満の点の多いものであるが、これによつても故島田・川上両嘱託ほか、本県の文化財の調査と保護に、終始、真摯な熱意を傾注してきた各調査委員のすぐれた功績の一斑は知ることができであらう。そして、後を継いでその職席にある私たちの、今後における責務の重大さも痛感させられるのである。

一、目録は分つて次の二部とした。

一、輯別目録

二、部別目録

「輯別目録」では、諸輯の巻頭に見られる凡例・例言・叙言・緒言の大部分を掲載している。これはひとえに、前項に述べたような尊敬すべき先人の志向の存するところを明らかにする資料にもと思つての老婆心に出でたものである。目ざわりと思わずに、是非とも、熟読して欲しいところである。

なお「部別目録」では

(一) 史蹟之部

(二) 名勝・天然紀念物之部

の二つに分けた。後者については、全くゆきなりの便宜に従つて名勝と天然紀念物を分別しなかつたのである。読者の寛恕を得たい。

一、この目録を作るには、家兄筑紫頼定の蔵書を借覧した。今、さいわいにこの目録が公費によつて印刷されるにあたり、特に記して謝意を表する。なお、この報告書の完本は、九州大学及び同第一分校にあるので付記しておく。

目次

一、輯別目録……………一

二、部別目録……………二〇

一、輯別目錄

目次

第一輯	一
第二輯	五
第三輯	六
第四輯	九
第五輯	一一
第六輯	一一
第七輯	一二
第八輯	一三
第九輯	一四
第十輯	一四
第十一輯	一五
第十二輯	一六
第十三輯	一六
第十四輯	一七
第十五輯	一七

第一輯 (大正十四年)

凡 例

一、本書ハ県内ニ於ケル史蹟中、古墳ノ部ニ属スルモノヲ彙類蒐録シタルモノニシテ、就中既ニ湮滅シタル古墳ノ遺品ヲ後世ニ伝ヘ且ツ古墳ノ知識ヲ普及スルノ主趣ヲモ加ヘテ編シタレバ普通ノ報告書ト稍其体裁ヲ異ニセリ。

一、本書ハ本県古墳ノ主要ナルモノ全部ヲ網羅シ尽セルモノニアラズ又本記事モ再調ヲ重ヌルニ於テ補正ヲ要スルモノアルベク、加フルニ後來新発見ノ事実ヲモ生ズベキニヨリ次輯以下ニ於テ追加ヲナスコトアルベシ。

一、本記事ハ其調査ノ時期多クハ旧度量衡ヲ用フルノ際ナリシヲ以テ全部旧法ニヨツテ記載スルコトセリ。

一、本書ノ編纂ハ本県嘱託島出寅次郎主トシテ之ニ当リ医学博士中山平次郎氏ヲ初メ合屋武城、黒岩万次郎、柳市太郎、石井真太郎、石橋為次、恒屋一誠、上滝満次郎、柴田喜八、三角茂等諸氏ノ助力ヲ得シコト少カラズ。

大正十四年三月

第一 大甕、合口甕

一一八

「本県内、筑前ノ北部ヨリ南筑後地方ニ至ル水村山郭ノ間ニハ、合セ甕ト称シ二箇ノ大甕ノ口縁ヲ合セテ棺ニ代用スル一種ノ葬法ノ行ハレタル遺蹟ノ存在セルコトハ、考古学者ノ夙ニ注意セシ所ナリ。斯ル合口甕ノ使用時代ハ、人類ガ原始的生活ノ時代ヨリ文化ノ第一歩ヲ踏出シタル金石併用時代ニ關係アルモノナルコトハ遺蹟研究ノ結

果ニヨリテ殆ンド疑ナキ事実ニシテ、一般人類ガ進化ノ順路ヲ通過セルモノナルニ係ラズ、本合口甕式ノ遺蹟ノ特ニ本県ニ濃厚ニシテ他府県ニ稀有ノモノナルハ、上代ニ於ケル或時期ノ文化的地方相トシテ、学界ニ興味アル問題ヲ提出セルモノト云フベシ。」

(イ) 伯玄祠の合甕「筑紫郡春日村大字小倉字ハタ俗称伯玄山」

(ロ) 合口甕につきて研究「合口甕の金石併用時代の物なる事を断定せしは、九州帝国大学教授中山医学博士にして博士の調査（考古学雑誌第一二巻の一、二、四号）によれば、甕棺の最も多き地方は、九州北部就中糸島、早良、粕屋、筑紫の各郡を最とし、朝倉、三井、三潨、浮羽、八女、山門地方に及び其カ所を挙げれば百カ所以上に達すべし」と

(ハ) 吉井松原の合口甕「糸島郡福吉付大字吉井松原畑」（大正一一、六一発見、写真掲載）

(ニ) 大甕埋没地方及其遺物（糸島郡新町及び御床松原、同郡三雲及井原、早良郡戸切、筑紫郡板付田端、同郡須玖岡本、粕屋郡鹿部、朝倉郡四三島及び三井郡乙隈、三井郡大板井、三潨郡高三潨及び塚崎、八女郡岡山及び亀甲についてその大甕以外の窯器、石器及びその關係遺物、金属器及びその關係遺物を表示してある。）

(ホ) 石蓋をなせる大甕「朝倉郡福田村大字平塚字栗山一〇八二番地永露銀太郎氏宅地」（大正一四、一、二八発見）

第二 銅鉾、銅劍その銘

八一八

「銅鉾、銅劍ハ本県内ニ於テ其発見頗ル多ク、古来其名ヲ筑紫鉾ト汎称セラレタリ。殊ニ其銘範ノ現存スルモノ少カラズシテ鑄口ノ焦レタル、又ハ銘範ノ発見地ヨリ炭屑ノ出デタル形跡アリトノ記録ノ如キハ以テ上世鑄造ノ行ハレタルヲ証スルニ足レリ。」

銅鉾、銅劍ハ古杜古祠ノ境内ヨリ発見セラルルコト多ク而モ本県ニ

於ケル著名ノ神社ニハ銅鉾、銅劍ノ神宝トシテ備ハザルモノ殆ド稀ナリ、第三圖ノ一二ハ官幣小社住吉神社ノ宝物ナリ、其出所ハ同社境内ヨリノ発見ナリト伝ヘラルルモ明確ナラズ。

銅鉾ハ其発見ノ調査地充分ナラズ、目下其明確ナルモノ二ヶ所ニ過ギズシテ而モ一ハ箱式組合石棺内ヨリシ、一ハ瓢形古墳内ノ石棺ヨリ出土シテ嘗テ銅鉾、銅劍ト伴出セシコトヲ聞カザルハ奇トスベシ。又銅鐸ノ一ケヲモ発見セラレザルハ亦研究ノ材料タルベキモノナリ。

(イ) 地祿天神社の銅鉾銅劍「筑紫郡河村大字板付字田端」(大正五、三発見)

(ロ) 皇石神社の銅劍「粕屋郡席田村大字鹿部字菴園」(明治三六、旧一、一発見)

(ハ) 須玖岡本の辻より出たる銅鉾「筑紫郡春日村大字順玖字岡本ノ辻」(大正一一、二、二二発見)

(ニ) 細石神社の銅鉾、銅劍其他「糸島郡高祖村大字三雲」(文政五、二発見)

(ホ) 銅鉾、銅劍発見地名表「本県に於ける銅鉾、銅劍の調査は故森弘氏によりて筑紫史談第二集に発表せらる就て観るべし本表は参考のため、考古学雑誌第十三巻第一号高橋健自氏の分を抽出せるものなるが詳細に調査せば尚遺漏せるもの多かるべし」(本表は発見地、種類数量、年次の別に、筑紫郡一三例、糸島郡三例、粕屋郡二例、早良郡一例、宗像郡二例、朝倉郡一例、鞍手郡一例、嘉穂郡一例、三井郡五例、浮羽郡三例、八女郡三例、三潯郡三例、田川郡一例、京都郡二例、計四一例について表示してある。)

(ヘ) 熊野神社の銅鉾の銘範「筑紫郡春日村大字須玖字岡本」

(ト) 行蔵院の銅劍の銘範「糸島郡怡土村大字大祖行蔵院」

(ヲ) 銘範発見地名表(糸島郡怡土村三雲川端観音堂所蔵銅鉾銘範一をはじめ八地点一二個について表示している。)

第三 箱式組合石棺

一八一—二三

(イ) 藤崎の石棺「福岡市西新町大字龜原字藤崎八七五」(明治三四、三、一九発見)

(ロ) 五崎山の石棺「早良郡姪浜町字五島山六九三」(大正三、一〇、一三発見)

(ハ) 龜山神社の石棺「粕屋郡志免村字別府龜山八幡宮境内」(附本墳と略其形式を同ふせるものに京都郡稗田村吉田の古墳あり)

(ニ) 織幡神社の石棺「宗像郡卍村織幡神社境内二二四、二二五、二二六」(大正二〇、一一一同二二、四一発見)

第四 石室古墳

二二一—八〇

「原史時代ノ遺蹟トシテ觀ルベキモノハ石室古墳ニシテ、本県内ニハ其遺蹟ノ存スルモノ頗ル多シ。

石室古墳ハ概シテ形勝ノ地ニ設ケラレ、其大ナルモノニ至リテハ其構造型式ノ雄大莊嚴ニシテ如何ニ多クノ歲月ト財力トヲ費シタルカヲ想像シ得ベク、又棺ノ内外ニ埋藏シアル副葬品ニヨリ明カニ當時ノ風習ヲ直觀シ得テ、歴史ノ闡明セラルルモノ少カラズ。

古墳ハ多ク巨大ナル石材ヲ使用シアルガ故ニ、築城築堤等ノ際ニ破壊セラレタルコト多ク、又或時代ニハ副葬品ヲ得ンガ為ニ好事家ニヨリテ発掘セラルルコト流行シ、又ハ田野ノ開墾耕地整理ノ行ハレタル際ニ全ク湮滅ニ帰シタルモノ少カラズ。

各古墳ノ年代ヲ知ルコトハ其標準ノ確定シタルモノナキヲ以テ困難ナリ、今日ニテハ古墳中年代ノ稍確実ナルモノニ拠リ他ノ古墳ノ構造遺物ヲ比較シテ推想スルニ止ルモノトス。京都帝國大学考古学教室報告書ニ浜田博士ハ浮羽郡日ノ岡古墳、久留米日輪寺古墳ヲ以テ継体天皇時代前後ノモノト表示シ、又重定古墳ノ武器ヲ負ヘル裝飾ノ施シアル

ヲ以テ仏教渡来以前ノモノナル事等有益ナル意見ヲ発表セリ。」

(甲) 石人あるもの

「筑後矢部ノ山中御前嶽アリ國中ノ第一峰タリ、支脉ノ裾ヲ曳キテ八女郡ノ中央ヲ東ヨリ西ニ延長スルモノ約三里、三瀨郡塚崎ニ達ス、大小ノ墳丘相望ミテ林叢ノ間ニ散在ス、其吉田ヨリ一条ニ至ル間約一里人形原ト称ス、石人此間ノ古墳ニ存在ス伝ヘ云「継体天皇ノ朝筑紫ノ君磐井叛シ物部麿鹿火ノ征討軍ニ敗レテ誅セラル、或ハ云豊前ニ遁レ去リ事平ゲリ、磐井生前ニ寿藏ヲ營ミ石人石馬等ヲ其ノ側ニ建ツト」岩戸山古墳是ナリト云ヒ又ハ一条ノ古墳是ナリト云ヒ、或ハ人形原散列古墳ハ何レモ国造ノ墳墓ナリト云ヒテ決定セルモノナシ。近時又三池郡上楠田ノ古墳上ニ石人一体ヲ発見シテ石人散列地ヲ拡張スルニ至レリ。」

「石人ニハ扁平立像ト円体立像ト円体坐像トアリ、外ニ石馬ト石甕？不明ノ石アリ、モト支那漢代ノ墳墓ノ前ニ配列セラルル石人石獸ノ影響ニヨリタルモノナレト、我國ニ於ケル造立ノ意味ハ埴輪ト同ジク我が国民性ニ適応シテ墳墓ノ表飾ニ変化セシメタルモノナルベシト云フ。」

石人ノ如何ニ樹立シアリタルヤハ明カナラズ、関ヶ原ノ役後田中吉政筑後ニ封ゼラレ、福島城ヲ築クキ石材トシテ石人石馬ヲ運搬使用シタルニヨリ、毀損ノママ福島ノ城址ト其附近ノ正福寺トニ残存スルモノアリ、又好事家ノタメニ他ヘ運搬セラレタル形跡アリ、現ニ豊後ノ日田ト久留米市篠山神社トニ石人ヲ存シ、両所ニ建テアル碑文ニヨレバ人形原ノモノタリシコト明カナリ。

石人を作れる石材は凝灰岩質の軟き粗鬆なるものにして、灰白色をなし、日輪寺、浦山古墳の彫刻石抜と同一材なり、八女郡川崎村字長野産の川崎石と称するものより取りたるが如し。(俗ニカマゼ石ト呼ブ)

(イ) 石人山古墳「八女郡下広川村大字一条字人形原一四三五民有山林」

(ロ) 岩戸山古墳「八女郡長峰村大字吉田字葛作谷、一五五四ノ一、外一筆、地目官有地第一種、無格社大神宮社地八反四畝十四歩」

(ハ) 石神山古墳「三池郡二川村大字上楠田字神楽田一七五番地ノ一、地積村社天満神社境内二百二十六坪」

(乙) 装飾あるもの

「筑後地方に横はる古墳中には石棺の内側に彫刻し、又は石室の槨壁或は棺或は棺の附近に樹てたる槨障に朱若くは其他の色彩を以て物象を模写し、又は各種の幾何形体を描出せるものありて考古界の注意を惹けり。

斯る装飾を施せる墳墓は他府県に幾分の例なきにあらざるも、其数量の多くして多様なるに至ては、肥後を除くの外我が筑後に比すべき所なし。

装飾は其一は実物を模せるもの即ち刀剣、矢根、矢筒、鞘、質等にして祈願奉獻の意義より出でたるものなるべく、則ち魔除け武徳の表彰などと称せらる。其二は純模様式にて、円、同心円、対角線、三角、菱、直弧紋又は蕨手の如き類にて、円は太陽或は鏡を表徴せりと説き、其対角線、三角、菱、直弧紋は織物又は編物の対象物によつて生じたるものとし、蕨形は植物の花木より硬化せりと解せらるれど目下は尚研究中に属するものなり。装飾古墳の時代は、出土せし副葬品によりて比較的新しきものに属し、彼の筑紫国造磐井の頃より仏法渡来頃迄のものなるべしと考ふる学者多し。」

(イ) 楠名重定古墳「浮羽郡椿子村大字朝田字楠名六八八外六筆、同上字重定六八一ノ二外四筆、同上大字西隈上字市木六二八外二筆、地目地積宅地山林墓地官有地計二千二百二十二坪」(大正一一、三、八内務省告示四十九号にて指定)

(四) 塚花塚古墳「浮羽郡椿子村大字朝田字塚花一二三五ノ一外二筆」
(大正一一、一〇、一二内務省告示二百七十号にて指定)

(イ) 日ノ岡、日ノ岡古墳「浮羽郡千年村大字若宮、郷社若宮八幡宮境内、日ノ岡古墳区域九百四十五坪、月ノ岡は社地百二十坪外山林及畑三反七畝十六歩」

(ニ) 富永古墳「浮羽郡福富村大字富永字東内畑一四五〇」

(ホ) 乗場古墳(別称糸良山古墳)「八女郡長峰村大字吉田字乗場一六四〇外一筆」

(ハ) 吉木下馬場古墳「三井郡草場町吉木下馬場二二六三外一筆」(大正一二仮指定)

(丙) 彫刻あるもの

(イ) 上津荒木浦山古墳(別称二軒茶屋古墳)「三井郡上津荒木村大字上津荒木字浦山一三八六」

「本古墳は軍隊の演習頻繁に実施せらるる場所にあり、随て破壊の憂あるが故に、大正十三年三月内務省の照会により知事より仮指定を行ひ、適當の保存法の講ぜらるゝ迄之を閉鎖せるが故に目下は之を觀覽するを得ず。」

(ロ) 日輪寺古墳「久留米市京町字七丁目日輪寺境内」(大正一一、三内務大臣の指定)

「本墳研究は大正六年版行京都帝国大学、文科大学考古学研究報告第一冊に詳説せらる」

(丁) 由緒ありと思はるゝ古墳

「古史の載する所我國建国の際に国造あり県に県主あり地方の治者として數百年其職を世襲し遂に地方に於ける君主の如き氏族を生じたり。又帝都に於ける権門勢家は其子弟を地方に送りて盛に墾田の業を興し遂に土地兼併の豪族をも生じたり、而して比等豪強の氏族は我が国民性によりて租孫繼承の義を重じ祖先を敬い神社を創め、墳墓を

壮にし以て民族制度を維持すると共に各種の弊習をも醸生しつゝ大化改新の時代に推移變遷せり。

地方史蹟の偉觀たる所謂石室古墳は當時に築造せられたるものにして、而も史上に其片鱗を認めらるる氏族の所在地には之に伴うて宏大なる古墳の存在するもの多きを常とす、固より記録伝説の其關係を証するものなしと雖も之を上世の墓制より考ふれば兩者の關係を蓋然的に推想するに難からざるものあり因て本題の下に若干の古墳を収むることとせり。但し前に記せる古墳も本欄に入るべきもの多きは言う迄もなし」

(イ) 与原古墳(御所山古墳)「京都郡小波瀬村大字与原字御所ヶ山八六八番地外一筆」

(ロ) 石塚山の古墳「京都郡苅田村大字南原字石塚山九三五」

(ハ) 丸隈山古墳「糸島郡周船寺字丸隈二五七」

(イ) ノ一 高宮古墳(通称寺塚穴觀音)「筑紫郡八幡村大字高宮字寺塚九六補陀山与宗寺境内一」

(イ) ノ二 東光寺古墳(通称東光寺穴觀音)「筑紫郡那珂村大字東光寺大日本麦酒株式会社境内」

(イ) ノ三 今里の古墳「筑紫郡席田村大字金隈」

(ニ) 権現塚と御塚「三潞郡大善寺村宮本一本松一一二〇及彼岸田三八八」

(ホ) 劍塚「鞍手郡中村大字高野字塚元二三四―二三五」

(ハ) 綾塚「京都郡黒田村大字中黒田字綾塚二二二九、無格社女跡神社境内」

第二輯 (大正十五年)

例言

一、本輯は史蹟と天然紀念物との調査書につき其の主要なるものを蒐録したるものにして、之が記述の目的は是等に関する思想の普及と之が愛護保存の要とを世上に希望する趣旨に外ならず、故に専門的の記事を避け又案内記に偏せざるように注意を払いたり。

一、史蹟の調査につきては武谷水城氏をはじめ調査せし土地の町村長及郡町村の主任書記又は学校長神官其他有志者より多大の援助を受けたることを記し其の厚意を感謝す。但し余の調査は短時日に付後日訂正追補の事項あるやも知るべからず。

一、本輯調査の箇所一地方に局限せられる嫌あるべし、是れ調査上の便宜によりたるものにて、他地方に史蹟名勝天然紀念物の乏しきを意味するものにあらなれば、順次各地方に拡張せらるべきものなることを茲に附言しておくもの也。

大正十五年三月

福岡県嘱託 島田寅次郎

天然紀念物之部

鵲

川口孫次郎

- (一) 鵲に関する文献 一
- (二) 鵲の保護につきて 二
- (三) 鵲に関する実験一斑 三
- (イ) 鵲の敏感利覚 (ロ) 人を識別する能力 (ハ) 蕃殖の始終 七
- (ニ) 夏季の鵲 (ホ) 秋季の鵲 (ヘ) 冬季の鵲 (ト) 鵲の食物
- 将来鵲の管理につきて考慮しておくべき事項

○蕃殖の妨害

○群集して漂泊

沖ノ島の植物

沖ノ島植物調査につきて

分類法に依りたる調査

分類以外の性質より調査

史蹟之部

太宰府趾の礎石

(一) 所在

・庁舎の名称及礎石に関する記録と古図

(二) 礎石の実測図

(イ) 礎石の数

(ロ) 縦断面の実測図

(ハ) 横断面の実測図

(ニ) 正庁に於ける礎石各個の形態図

(ホ) 正庁に於ける礎石と礎石との距離

(ヘ) 正庁以外の礎石

(三) 府趾の建碑

太宰府碑(亀井魯) 太宰府旧蹟碑(竹田定簡)

太宰府址碑(渡辺清)

○太宰府の沿革概要

(一) 起源 (二) 職員 (三) 太宰府の盛衰 (四) 武家の時代

大野城址

第一 大野城址

(一) 地理

(二) 築城

鍋島与市

(三) 山城の設計構造

- (イ) 土塁 (ロ) 城門及石垣 (ハ) 主城司の跡 (ニ) 城庫の跡

- (ホ) 烽候の跡 (ヘ) 鼓が峰 (ト) 石鍋の出土

第二 四天王寺址

- (一) 創立

- (二) 四天王寺の記録

- (三) 廃滅

- (四) 遺跡

○大野山を詠ぜる古歌

第三 原山無量寺址

- (一) 所在

- (二) 沿革及現状

- (三) 古文書の記録に散見するもの

- (四) 経筒の発見

雷山

- (一) 雷神社 上中下宮

- (二) 千如寺 創立 怡土の七ヶ寺

- (三) 古文書 倫旨其他

- (四) 大悲王院

- (五) 神籠石(筒城)

飯盛山

- (一) 地理

- (二) 平群郷と古墳

- (三) 飯盛神社 古文書

- (四) 神宮寺 七ヶ寺

- (五) 経瓦の発見 既往の発見 埋蔵石室の発見

築造時代の明かなる経塚

二三

二九

二九

三〇

三二

三二

三三

三四

三四

三四

三六

三七

四〇

四〇

四二

四三

四七

四八

五三

五三

五三

五五

五七

五八

六四

第三輯 (昭和三年)

叙言

本輯は臨時に調査を囑託せし人々の報告書を蒐めたるものにして昭和二年度以前の分に係る。而して目次の順序は史蹟にあつては概ね時代によりて之を分てり。

石塚常彦氏の報告書中、古月百穴附近概観の第二版と出雲百穴の奥室と前室との隔壁第九版との二葉は図版省略の關係より遺憾ながら之を省けり。又同氏の挿図中に印刷者の都合により其順序の先後せるものあること、実物大のものも縮写の已むを得ざる事情ありて、実物より幾らか縮少せられたり。之れ氏及び読者に諒承を乞う所なるが、氏は本稿を絶筆として昨年病に罹りて逝去せられたり、茲に敬弔の意を表す。

古墳の調査は三井八女浮羽の三郡に涉り調査に着手せしも、浮羽郡

永久二年の銘ある経瓦 早良郡金武村飯盛山神社(前出) 六四

永久四年の銘ある経筒 浮羽郡水繩村石垣観音寺 六四

保安元年の銘ある経筒 糸島郡怡土村其他不明 六六

天治二年の銘ある血経 朝倉郡安川村檜原東光院 六六

天治二年の銘ある経筒 粕屋郡須恵村佐谷観音谷 六八

久安六年の銘ある経筒 築上郡岩屋村求菩提国玉神社 七〇

庚治元年の銘ある銅版 保延六年の銘ある経筒 仁平二年の銘ある経筒 正和五年の銘ある経筒 遠賀郡香月村聖福寺 七五

正和五年の銘ある経筒 遠賀郡香月村聖福寺 七五

は其の数千余の多きに達し未だ完了せず、因て八女三井の分のみを掲ぐ。同調査者は附近役場並に小学校に助力を乞いて熱心に調査を完了せられたり、茲に其の厚意を感謝す。

挿入せる画版は石塚氏の分と名勝天然紀念物の外は、大概編者が調査者と協定撮影したるものなるも、間に編者の専断に出でたるものなり。

昭和三年三月

福岡県嘱託 島田寅次郎

史 蹟

古月貝墟	図版数	六	石塚常彦
古月百穴	同	一五	同
出雲百穴	同	一八	同
筑後国分寺址	同	七	武藤直治
宗像の一筆一切経	同	六	伊東尾四郎
真木保臣滴居地	同	六	黒岩万次郎
平尾山荘記	同	一二	春山育次郎
八女郡古墳調査表			石橋為次
三井郡古墳調査表			上滝満二郎
丸隈山古墳の保存工事	図版数	五	

天 然 紀 念 物

英彦山の鬼杉	図版数	一
英彦山のゲンカイツツジ	同	一
本庄の樟	同	二
旧亀石坊庭園	同	二
千仏鐘乳洞	同	四

(本輯の史蹟に関するものゝ内容を、各担当者の報告に基づいて今

すこしく詳記すると次のごとくである)

○筑前東部に於ける史蹟

第一篇 古月貝墟	(一)
第二篇 古月百穴	(一一)
第三篇 出雲百穴	(二七)
右三篇命に依り調査報告候也	

昭和二年二月二十八日

福岡県鞍手中学校地理歴史教室ニテ

報文担任者 石塚常彦

本報文の資料蒐集に当たり、古月貝墟の調査には武谷寿氏(折尾高等女学校教諭)、古月百穴につきては白石藤六氏(百穴地域の地主)、出雲百穴につきては梶島縫太郎氏(平塚村出雲の有志)の助力を得、写真撮影につきては桜井信一氏(鞍手中学校教諭)を煩はしたり、又実測に際しては、長野文一郎氏(鞍手中学校教諭)大野文雄氏(鞍手中学校書記)及秋吉光雄氏(同上)の援助を借れるものなり、されば本報文は或意味に於て以上諸氏の合作なりと見ることを得べし。

○筑後国分寺址

武藤直治

目 次

一、緒 論	
二、位 置	
三、沿革	
四、国分僧寺址	
五、国分尼寺址	
六、現在の国分寺	
七、附 説	

○宗像の一筆一切経

伊東尾四郎

- (一) 調査着手
- (二) 経巻の数
- (三) 奥書と年号
- (四) 写経年号別
- (五) 写経の筆者
- (六) 写経の発願
- (七) 写経の場所
- (八) 写経の校合
- (九) 筆者の勉勵と年齢
- (十) 経主及筆墨助成者
- (十一) 写経の原本

○贈正 眞木保臣滴居地

黒岩玄堂

- 一、総論 幕末偉人 勤王宗の鎮西本山
 - 二、幽囚 久留米の禁錮 水田の幽閉 偉臣の別号
 - 三、所在 水田村の小事 羽犬塚との距離方位
 - 四、地域 当時の地勢 現時の状態
 - 五、山庵窩 営作の経過 屋号の由来 幽居中の事業
 - 六、予樟樹 建物の移動 室内の偏額 神木 楠公祭
 - 七、脱走 上野の訣別 首途の記念
 - 八、紀念碑 位置及大さ 碑銘
 - 九、追慕祭 時日 方法
 - 十、保存方法 保存区域 保存資金 将来の計画
- 平尾山莊
- 一、閑居の期間
- 二、結廬の由来
- 春山育次郎

- 三、閑居停屯の事情
- 四、草庵の成就
- 五、山莊の景物
- イ、山の井 ロ、雨まぢの滝
- ホ、紅葉 ヘ、梅
- ハ、心の友 ニ、桜
- ト、草木種々
- 六、草庵の内容
- 七、木龜の小祠
- 八、平尾山莊碑
- 九、閑居中の交遊
- 十、勤王志士との関係
- 附 平尾山莊の草庵

○八女郡古墳調査表

叙言

不肖古墳調査の囑託を受け大正十四年二月より同年四月迄公務之余暇我八女郡に於ける之が調査をなしたり。

本郡に於ける原史時代に属する古墳は北方川崎村上広川村以西岡山村下広川村の間最も多し、其脉三瀧郡塚崎に至る延長三里其中長峰村大字吉田より下広川村大字一条に至る約一里の間古来俗に人形原と称し大小の墳丘叢林の間に散在せり。又南方北山村に於ても同様の古墳所々に存在す、其他山間村落にも種々の墳蹟あれども古墳たるを認めず、仍て之を省除し本郡中川崎村上広川村中広川村下広川村長峰村北山村の六ヶ村に涉り、各村役場吏員の助勢を請い、大小二十有余の古墳に就て之を調査せり、尚将来之れが発見を得て逐次之を調査附加せんと欲す。

大正十四年四月

古墳調査委員 石橋為次

〔調査事項〕として列挙してあるものは

調査年月日
名 称
所在地
地目地番
所有者住所氏名
形状方向
高 縦 横
発掘ノ有無及年月
棺槨ノ有無及構造
副 葬 品
外部発見品

備考（次項の三井郡分もこれと同様）

○三井郡古墳調査表

叙 言

一、大正十三年八月二十六日はからずも県当局より三井郡地方に於ける古墳調査委員を嘱託せられたるを以て、余は一大希望の下に校務の余暇を利用し、愈々古墳変革の夫れを調査し始めぬ。然るに先づ我村内の分のみにても正確と思はれる程の調査を遂ぐる事容易なる業にあらず、特に故老の伝説等に至りては愈々漠然たるものにて其要を得ず、漸次他地方二十四個町村に亘り大正十四年十二月に至り漸く郡全体の調査を終了したり。

二、学校教育上より見て地方一帯の過去に於ける理解を明にすると共に、小学校に於ける国史科の資料に供せんと思ひ、郡事務局と交渉して快諾を得、各町村学校所在地に就き一応の下調査を為し得たり但し各学校職員の勞与りて力ありき、依て之を本として近村は学校児童の手をかり、遠隔地は学校使丁等を使役して各町村村役場につき、其地方に於ける主要なるものを追て漸く調査を了へたり。

三、古墳群としての主要なる地帯は耳納山麓地一帯にして上津荒木、高良内、御井、山本、草野の各地方特に著しく草野地方には発掘後の墳槨今に完全なるもの多く上津荒木地方に至りては、陸軍演習地又は作業地等利用せられたる結果、今や殆ど発掘壞廢せられたる跡のみにて唯一二の未発掘丘を留むるのみ。

四、筑後川以北平野の各一帯は古来河水汎濫のため殆ど其害をうけたるものゝ如く、残れるも五万騎塚千人塚等の名称ある事より察するに、正しく南北朝正平前後のものらしく古墳にあらざるものと認めたるを以て、此の分に就きては深き調査を欠けり。以上

大正十四年十月三十一日

福岡県三井郡高良内村小学校訓導

上 滝 満 次 郎

第四輯（昭和四年）

緒 言

本書ハ昭和三年度ニ於テ調査委員ノ提出シタル報告書ヲ集メタルモノニシテ、天然紀念物十二、史蹟九、合計二十一題ヲ編輯セリ。調査ノ際、市町村役場員、区長其他篤志者ヨリ受ケタル御援助ニ対シ、委員ニ代リ感謝ノ意ヲ表ス。

本県ハ史蹟名勝天然紀念物ニ富メルガ故ニ、之ガ調査ヲ完了スルハ前途尚遠ナルニ、文化施設ノ事業ハ日ニ進捗シ、為ニ湮滅破壊ノ恐れナキニアラザルヲ以テ、本年度ニ於テハ、県内四十有六ヶ所ニ標示板ヲ建設シテ其湮滅スベカラザルモノナルコトヲ榜示シ、以テ地方ニ郷土愛護ノ精神ヲ發揮センコトヲ勸告セリ。本書ヲ印刷シテ頒ツ

モ亦此意ニ外ナラズ。
史蹟ノ地下ニハ当時ノ事蹟ヲ徴スルニ足ル埋藏物ノ出土スルコト少カラズ、是等ハ調査上唯一ノ好資料タルヲ以テ木片瓦、石ト雖モ報告セラレンコトヲ望ム。又公益上已ムヲ得ズ史蹟名勝天然紀念物ノ所在地ニ対シ現状ノ變更セラルル場合ハ、図上保存ノ必要アルベキニヨリ土工ノ施サレザル以前ニ報告セラレンコトヲ望ム。要スルニ祖先ノ遺蹟遺物ヲ保存シ、天恵ニ富メル天然紀念物ヲ保護スルハ、我が卓越セル国民性ノ特色ナリ。

昭和四年三月

福岡県

天然紀念物

ヘラサギ *Platalea L.* の調査 (図版一) 調査委員 川口孫次郎 一

目次

ヘラサギに関する既存記載等
クロツラヘラサギの出現

参考 有明海附近におけるヘラサギの実例
有明海以南における最近の実例

ヘラサギの保護に関する卑見

オホハクテウ *Olor cygnus. (L.)* の調査 調査委員 川口孫次郎 一〇

ヤマシヤウビン *Haleyon Pileata* の調査 (図版数 一) 調査委員 川口孫次郎 一二

スキンホーガラ *Remiz Pendulinus Consobrinus (Swinhoe)* の調査 (図版数 一) 調査委員 川口孫次郎 一四

ツルクヒナ *Gallicrex Cinerea (Gmelin)* の調査 (図版数 一) 調査委員 川口孫次郎 一五

名島櫓石調査 (図版数 五) 栗田 鼎造 一六

姪浜蛇岩調査 (図版数 四) 調査委員 栗田 鼎造 二七

小呂島植物調査 (〃 三) 〃 鍋島与市 三〇

斑紋竹調査 (〃 二) 〃 〃 六四

小郡のサザンクワ野生状態調査 (図版数 二) 〃 〃 六五

南畑のサザンクワ野生状態調査 (図版数 二) 〃 〃 六六

八所神社社叢及安康松調査 (図版数 六) 〃 〃 六八

史蹟

企救郡曾根村古墳調査 (図版数 三) 調査委員 末岡作太郎 七五

豊前国分寺調査 (〃 四) 〃 〃 七八

楠田ノ貝塚及姥ヶ懐焼窯址調査 (図版数 二) 〃 岡 茂政 八九

禅院村建仁寺址調査 (図版数 五) 〃 伊東尾四郎 九四

彦山座主の墓 (図版数 五) 〃 武藤直治 一〇〇

大保原合戦に関する墳墓伝説地 (図版数 五) 〃 伊東尾四郎 一一二

筑前の宿駅 (〃 一〇) 〃 〃 一三〇

竹田家歴代の墓 (〃 一) 〃 〃 一四〇

名島城址 (〃 一二) 囁 託 島田寅次郎 一四〇

第五輯 (昭和五年)

凡 例

一、本県ハ昨年二月史蹟名勝天然紀念物調査規程ヲ設ケ調査委員十七名ヲ囑託シテ之ガ調査ニ従事セシメタルカ、本輯載スル所ハ其委員ノ調査報告ニ係レリ。

一、本輯載スル所史蹟七、天然紀念物十、名勝二、而シテ委員中調査未了ノモノ尚二三アリタリ。

一、(省 略)

昭和五年三月

福岡県

高良山神籠石 (図版数一〇)	調査委員 臨時調査委員	武藤 直治 石野 義助	一
日 拜 塚 (〃 一二)	調査委員 同 嘱 託	中山 平次郎 玉泉 大梁 島田 寅次郎	一五
左谷建正寺、右谷石泉寺 (〃 一一)	調査委員	竹岡 勝也	二七
天台寺趾調査 (〃 八)	〃	山本 通	四三
宗像氏関係史蹟 (〃 二)	〃	伊東尾四郎	五三
八院の古墳墓 (〃 二)	〃	岡 茂政	五八
小倉市広寿山福聚寺 (〃 三)	〃	末岡作太郎	八一
ダイサギ <i>Herodias timoriensis</i> (Cuvier) の調査	〃	川口孫治郎	一〇二
ツバメチドリ <i>Glareola orientalis</i> (Leach) の調査	〃	〃	一〇四
ヘラサギ <i>Plataea. L.</i> の調査	〃	〃	一〇七

第五輯 第六輯

宗像郡上西郷村西法寺所在ザロンウメの調査

(図版数 二) 調査委員

額 續理 一郎 一一〇

香春岳に関する調査報告

〃

鍋島 与市 一一五

香春岳産植物目錄

〃

〃 一二〇

椿、なんきんこざくら、げんかいつつじの調査

(図版数 三)

〃

〃 一四九

千仏鐘乳洞の調査 (〃 七)

〃

栗田 鼎造 一五三

旧、石井坊庭園遺構調査 (〃 三)

〃

永見 健一 一六五

風景觀賞地点としての東油山觀音境内の調査

(図版数 一)

〃

木村 尚文 一六九

第六輯 (昭和六年)

叙 言

本輯は昭和五年度に於て本県史蹟名勝天然紀念物調査委員の報告書を集めて印刷に附したるものにして、深刻なる研究を遂げられたるもの又は多数の題目につき調査せられたるものあり、深く其勞を謝すると共に之が調査に便宜援助を与えられたる市町村吏員学校職員並に地方有志者に対し茲に謝意を表す、特に大野城の実測に従事せし松尾繁人氏に対し厚く其好意を感謝す。

史蹟名勝天然紀念物は国民思想の涵養に資するべきもの多きを以て所在地に於て出来得る限りの保護を加へられんことを望む。

昭和六年三月

福岡県学務課

史 蹟

今山の石斧製造所址	(図版数 五)	調査委員	中山平次郎	六七
鎮懷石伝説址	(〃 四)	〃	竹岡 勝也	八三
草野町宮崎邸内装飾古墳	(〃 六)	〃	玉泉 大梁	九五
大野城及四王寺遺蹟	(〃 十七)	〃	長沼 賢海	一〇一
道君首名墓	(〃 二)	〃	武藤 直治	一二三
老岐村城ノ原廃寺址	(〃 七)	〃	玉泉 大梁	一二七
懷良親王に関する星野村伝説地	(〃 四)	〃	武藤 直治	一三三
蒲池氏関係史蹟	(〃 六)	〃	岡 茂政	一四三
吉見嶽城址	(〃 七)	〃	武藤 直治	一五一
秋月氏の遺蹟	(〃 四)	〃	伊東尾四郎	一五五
小倉延命寺址	(〃 四)	〃	末岡作太郎	一六三
永満寺趾の経筒	(〃 四)	囑託	島田寅次郎	一八一
名 勝				
三奈木村黒田男爵旧邸の林泉	(図版数三)	調査委員	永見 健一	一
納富正巳氏邸の古苑	(〃 五)	〃	〃	五
日向神(八女津嬢山)の調査	(〃 十六)	〃	木村 尚文	一一
天然紀念物				
長垂の巨晶花崗岩脉紅雪母の調査	(図版数六)	調査委員	高 壮吉	二五
小戸御膳立の調査	(〃 六)	〃	栗田 鼎造	二九
ヤマシヤウベン	Haleyon Pileata の調査	〃	川口孫治郎	三九
ツバメチドリ	Glareola Orientalis の調査	〃	〃	四一
カラスバト	Janthoenas janthina janthina の調査	〃	〃	四三
(図版数一)				

第七輯 (昭和七年)

緒 言

本七輯ハ昭和六年四月以降本県史蹟名勝天然紀念物調査委員ノ調査報告セシモノヲ蒐集印刷ニ附シタルモノトス。尚昨年十月開会セシ委員会ノ希望ヲ納シ、附録トシテ鍋島委員ノ多年ノ調査二十六本県植物ノ基本調査ヲ掲載シ、且別刷トシテ之ヲ図書館ニ配布スルコトトセリ。

本調査題目ハ県ヨリ特ニ指定調査ヲ依囑セシモノト、委員隨意ニ撰バレタルモノトアリ。何レモ市町村役場・学校職員・篤志者ノ助力ヲ得タルコト少カラズ、茲ニ感謝ノ意ヲ表ス。

昭和七年三月 福岡県学務部

天然紀念物

ミミカキタケ (冬虫夏草の一種) の追加調査	(図版数二)	調査委員	額頴理一郎	一
オホハクテウ	Olor Cygnus G の調査	〃	鍋島 与一	二
ダイサギ	Herodias timoriensis の調査	〃	川口孫治郎	一三
千匹塚の調査	(図版数一)	〃	〃	一五

福吉の含稀原素鉢床の調査(図版数四)調査委員 高 壮吉 一七
 小石原の行者杉の調査(〃 五) 〃 土井 藤平 二三
 唐泊に於ける巨大な仙人掌の調査(〃四) 〃 額額理一郎 二九

名 勝

村上与一郎氏邸古苑の調査(図版数四)調査委員 永見 健一 三三
 山門郡城内村の二古庭の調査(〃八) 〃 木林 尚文 三七
 企救の浜の調査(〃 三) 〃 末岡作太郎 四三

史 蹟

福岡地方に分布せる二系統の弥生式土器の調査
 (図版数三) 調査委員 中山平次郎 五五
 朝倉郡「砥上山観音塚」古墳の調査(〃四) 〃 玉泉 大梁 八五
 御塚及権現塚に関する調査(〃一一) 調査委員 武藤 直治 九三
 臨時 〃 石野 義助
 箱式石棺内に於ける合葬遺跡の調査

(〃 一四) 嘱 託 島田寅次郎 一〇三
 水城の大樋の調査 (〃 一七) 調査委員 長沼 賢海 一一一
 独鈷寺と千年家の調査 (〃 九) 〃 竹岡 勝也 一三五
 天台寺瓦焼窯址の調査 (〃 七) 〃 山本 通 一四五
 草野氏関係遺蹟の調査 (〃 五) 〃 伊東尾四郎 一四九
 梅岳山福嚴寺の調査 (〃 四) 〃 岡 茂政 一五九
 英彦山勤王家遺蹟の調査(〃 七) 〃 山本 通 一七一

附 録

福岡県植物基本調査書 調査委員 鍋島 与市 一

第八輯 (昭和八年)

(前略)

本県は史蹟名勝天然紀念物に富み之が調査は尚遼遠なると共に既に指定又は榜示せるものの保存亦等閑に附すべからず、希くは所在地に於て郷土愛の精神を発揮し、指定たると否とを俟たず、出来得る限りの保護を加へられんことを望む。

昭和八年三月

福岡県学務部

天然紀念物之部

口絵 松崎の山桜(原色) 九州帝国大学農学部 眞隅 大莊 一
 松崎桜馬場に於ける山桜並木 描 写 嘱 託 額額理一郎 一
 京都郡御所ヶ谷に産するヒモヅル 調査委員 額額理一郎 九
 曾根村海岸のシチメンサウ群落 〃 〃 額額理一郎 一三
 今津のハマボウ 〃 〃 土井 藤平 一七
 若杉のホルトノキ大木と 〃 〃 〃 二一
 志賀島のバクチノキ大木 〃 〃 〃

名 勝 之 部

景勝地としての英彦山 調査委員 木村 尚文 一
 史 蹟 之 部

遠賀川遺蹟の土器紋様 調査委員 中山平次郎 一
 石人山古墳 〃 武藤 直治 一三
 筑紫郡三宅庵寺址 〃 玉泉 大梁 二七
 伝三宅寺址並に瓦窯址 〃 〃

求菩提山国玉神社	調査委員	竹岡 勝也	三七
昭和七年発見四王寺経筒写経と四王瓦	嘱 託	川上市太郎	五一
筑前に於ける鎌倉時代の遺蹟遺物について	調査委員	島田寅次郎	六一
由緒ある民家	"	伊東尾四郎	八一
久留米藩医学館趾及菜園趾	"	武藤 直治	九五

第九輯 (昭和九年)

史蹟之部

飯塚市立岩運動場発言の甕棺内遺物	調査委員	中山平次郎	一
飯塚市立岩字焼ノ正の石廂丁製造所址	"	"	五七
飯塚市立岩字サコの一古墳	"	鏡山 猛	七一
豊前猪位金村位登古墳	"	青木庄一郎	七七
高良山、礫山枕付舟型磐棺	嘱 託	川上市太郎	八五
筑後浮羽郡福富村西山田古墳群地帯の遺蹟	調査委員	宮崎 勇蔵	九一
福岡県の横穴	"	島田寅次郎	一〇七
朝倉橋広庭宮遺趾(第一回報告)	"	玉泉 大梁	一二五
太宰府出土埴埴に就て	嘱 託	川上市太郎	一四三
西油山天福寺址	調査委員	竹岡 勝也	一四九
高良山経塚発見の一字一石経	"	武藤 直治	一六三
五卿関係遺蹟	"	伊東尾四郎	一六九
筑前相ノ島の自然景觀	調査委員	金尾 宗平	一

名勝之部

英彦山に於ける古庭園	調査委員	木村 尚文	九
千代の松原名勝の保全に就て	"	君島 八郎	二一
天然紀念物之部			

第十輯 (昭和十年)

名勝之部

古処山のカルスト Karst 景觀	調査委員	金尾 宗平	一
筑前岡松原	"	木村 尚文	二
史蹟之部			
筑後女山神籠石	調査委員	石野 義助	一
筑後国浮羽郡千年村徳丸塚堂古墳	"	宮崎 勇蔵	一一
異例の古墳	"	島田寅次郎	二九
須恵焼に刻しある文字につきて	"	"	三五
福岡県下の条里遺蹟(其ノ一)	"	鏡山 猛	四一

志賀島志賀海神社社叢	調査委員	山崎 又雄	一
福岡県北海岸に分布するハマオモト	"	鍋島 与市	一三
矢部川の樟林	"	木下 盛枝	一九
筑前秋月のナガバヤマサクラ	"	鍋島 与市	二五
小野村薦野天降神社境内樹木の板根	"	鍋島 与市	二九
糸島郡野北村に開花した龍舌蘭	"	"	三五
吉祥寺の青蓮花	"	鍋島 与市	四二

朝倉橋広庭宮遺址 (第二回報告)	調査委員	玉泉 大梁	五三
御笠団印と遠賀団印	嘱託	鏡山 大猛	六五
筑後国駛馬村宮原石層塔	調査委員	川上市太郎	七五
高良山中再発見の一字一石経		武藤 直治	八三

天然紀念物之部

大ケ岳におけるツクシシヤクナゲ群落		額 額理一郎	一
隠家森		山崎 又雄	二一
鎮西村の桂			二五
遠賀郡香月の大櫨		額 額理一郎	三三
英彦山に於ける仏法僧 (第一回報告)		安部 幸六	三九
福岡県に於いて注意すべき蟬		江崎 悌三	五一
船小屋の螢			六一

第十一輯 (筑前王塚古墳は昭和十年
他は昭和十一年)

史蹟之部

筑前王塚古墳 (otsuka Ancient Sepulchre)

福岡県嘱託 川上市太郎

謹みて王塚古墳に敬虔の意を表す。

筑前王塚古墳目次

第一 所 在 地	一
第二 景 観	三
第三 発 見	五

第四 古墳構造

(1) 外 構	七
(2) 内 構	七
第五 裝飾壁面	九
(1) 立室壁面	一九
(2) 羨室壁面	一九

第六 主 体	二五
第七 副 葬 品	二九
(1) 立室副葬品	三一
(2) 羨室副葬品	三一

第八 王塚の名称	四八
第九 王塚の伝説	四八

謝 辞

図版数 口絵外 一〇九図

上代秘められし塚に、敬意を手向け

古墳調査の準拠し説明順序をものとせんと、調査目次と採び、之に古墳管理者並に関係者の説明の葉、未参の人への道しるべを考へて、記述を平易に、該塚独存のものには便宜仮称を呼び、奥都城を吊ひ、遺物の取調内容を挟み、伝説を語る文字を綴りたれど、文字なき古を想い、図版を主目として編輯しました。顧みて古墳に対する礼を欠いては居ないか、只管古墳の保安を念ずる次第であります。

尚、考古の及ばず、自ら嫌らざるものありながら筆を擱けば、古墳の主よりは、笑みせらるゝを覚ゆるものがあります。

斯道篤学の方にとりては、記事に冗長の嫌いあるを、幸に諒恕せらるゝよう希望しておきます。

昭和十年十二月

筆者

(写真は何れも筆者の撮影、未熟を謝します。)

名勝之部

池ノ山の湖水と蝙蝠岩並に室山の奇勝 調査委員 金尾 宗平 一
 麻生池の島の植物 " 木下 盛枝 二

天然紀念物之部

つくしがやつり 調査委員 山崎 又雄 一
 福岡県産「するぜんのり」 " " 五
 遠賀郡芦屋の蘇鉄 " 額頴理一郎 一五
 筑前古僧都山のハヒビヤクシン 木下 盛枝 一九
 光 遠 木 " 二五
 福岡県に於ける珍重すべき昆虫(第一報) 江崎 悌三 三一

第十二輯 (昭和十二年)

史蹟之部

筑後一条石人山古墳 調査委員 武藤 直治 一
 朝倉橘広庭宮遺趾 " 鏡山 大梁 猛 九
 福岡県に於ける中世の墳墓 " 島田寅次郎 二七

名勝之部

福岡県下の砂丘と新宮浜に於ける鳥居の埋没景 調査委員 金尾 宗平 一
 筑豊国境船尾山から松尾山へのカルスト景觀 " 七

天然紀念物之部

犬ヶ岳山麓植物調査報告 調査委員 額頴理一郎 一
 筑後高良山の孟宗金明竹 " 木下 盛枝 九七
 筑前岡垣村の孟宗金明竹 " 山崎 又雄 一〇一
 筑前岡垣村のシャシヤンポ喬木林 " " 一〇五
 宮川早生温州蜜柑の母樹 " 額頴理一郎 一〇九
 福岡県に於ける珍重すべき昆虫 " 江崎 悌三 一二一

第十三輯 (昭和十四年)

史蹟之部

石器と土器・古墳と副葬品 調査委員 島田寅次郎 一
 水繩山麓の裝飾古墳 " " 石野 義助 六五
 筑前怡土^{いと}履^り " " 武藤 直治 六五
 福岡県囀託 川上市太郎 七五

天然紀念物之部

豊前重箱池の鬼蓮 調査委員 荻原 武平 一
 筑後御前岳及釈迦岳のつくしやくなげ群落 " 木下 盛枝 一二
 豊前大富神社の黄心樹 " 荻原 武平 二一
 筑前春日神社の社叢 " 山崎 又雄 二七
 筑後宮陣村將軍桜 " 額頴理一郎 三五
 筑前粕屋郡須恵村ザロンウメ " 四三

筑前上西郷村ナギの巨樹	調査委員 額理一郎	四九
豊前求菩提山及其附近鳥類一班	〃 安部 幸六	五三
福岡県に於ける珍重すべき昆虫オホカマキリモドキ	〃 江崎 悌三	九七

第十四輯 (史蹟之部は昭和十六年、天 然紀念物之部は昭和十八年)

元寇史蹟(地の巻)

「この元寇史蹟(地の巻)」収むる処

蒙古軍船碇石

元寇防塁

多可島考

の三篇である。

是により元寇経過の一般外廓を窺い知らるるものと思はる。次いで機を得て天之巻(精神動員、氣象關係)、人之巻(戦闘關係)、の調査に稿を進めんとするものである。

昭和十六年一月 福岡県嘱託 川 上市 太郎

天然紀念物之部

筑後光友村の老松	調査委員 木下 盛枝	一
松原寺の松	〃 荻原 武平	五
御塔の松	〃 〃	九
英彦山鳥類一班	〃 安部 幸六	一三
珍鳥 <i>Tetrax orientalis</i> HARTEK に就て	〃 〃	六三
弥永の一里塚松	〃 荻原 武平	六九

第十四輯

第十五輯

有毛の傘松	調査委員 荻原 武平	七三
安 康 の 松	〃 〃	七九
筑後高良山孟宗金明竹新竹発生調査	〃 木下 盛枝	八五
観音山の合葉の松	〃 額理一郎	九一
福岡市唐人町のマキの巨樹	補助員 額理一郎	九七
県社高倉神社境内の樹木	調査委員 玉井虎太郎	一〇一
芥屋大門波止松原の海浜植物群落	〃 山崎 又雄	一〇七

第十五輯 (昭和十九年)

名勝之部

豊前上野の白糸瀧

豊前荊田のカルスト (Karst) 天然橋

史蹟之部

本県に於ける有栖川宮熾仁王御事蹟	調査委員 島田寅次郎	七
浮羽郡千年村橘田宝満宮の酒造石に就て	〃 〃	〃

酒壺石調査覚書

〃	宮崎 勇蔵	七三
〃	木下 亀城	七九

一七

二、部別目錄

目次

(一) 史蹟之部	一一
----------	----

(二) 名勝・天然紀念物之部	二四
----------------	----

(一) 史蹟之部

第一輯 (大、一四)

- 大甕合口甕
- 銅 鉾 銅 剣
- 箱式組合石棺
- 石 室 古 墳

第二輯 (大、一五)

- 太宰府趾の礎石
- 大野城趾
- 雷 山
- 飯 盛 山
- 築造時代の明かなる経塚

第三輯 (昭、三)

- 古 月 貝 墟
- 古 月 古 穴
- 出 雲 百 穴
- 瓦塚国分寺趾
- 宗像の一筆一切経
- 真木保臣適居地
- 平尾山荘記
- 八女郡古墳調査表
- 三井郡古墳調査表

第四輯 (昭、四)

- 丸隈山古墳の保存工事
- 企救郡曾根村古墳調査
- 豊前国分寺調査
- 楠田ノ貝塚及姥ヶ懷焼窯址調査
- 禅院村建仁寺址調査
- 彦山座主の墓
- 大保原合戦に関する墳墓伝説地
- 筑前の宿 駅

第五輯 (昭、五)

- 竹田家歴代の墓
- 名 島 城 址
- 高良山神籠石
- 日 拜 塚
- 左谷建正寺、右谷石泉寺
- 天台寺趾調査
- 宗像氏関係史蹟
- 八院の古墳墓
- 小倉市広寿山福聚寺

第六輯 (昭、六)

- 今山の石斧製造所址
- 鎮懷石伝説址
- 草野町宮崎邸内裝飾古墳
- 大野城及四王寺遺蹟

- 道君首名墓
- 彦岐村城ノ原廃寺址
- 懷良親王に關する星野伝説地
- 蒲池氏関係史蹟
- 吉見嶽城址
- 秋月氏の遺蹟
- 小倉延命寺址
- 永満寺址の経筒

第七輯 (昭、七)

- 福岡地方に分布せる一系統の弥生式土器の調査
- 朝倉郡「砥上山觀音塚」古墳の調査
- 御塚及権現塚に關する調査
- 箱式石棺内に於ける合葬遺跡の調査
- 水城の大樋の調査
- 独鈷寺と千年家の調査
- 天台寺瓦窯址の調査
- 草野氏関係遺蹟の調査
- 梅岳山福嚴寺の調査
- 英彦山勤王家遺蹟の調査

第八輯 (昭、八)

- 遠賀川遺蹟の土器紋様
- 石人山古墳
- 筑紫郡三宅廃寺址並に瓦窯址
- 求菩提山国玉神社
- 昭和七年発見四王寺経筒写経と四王瓦

第九輯 (昭、九)

- 筑前に於ける鎌倉時代の遺蹟遺物について
- 由緒ある民家
- 久留米藩医学館址及菜園址
- 飯塚市立岩運動場発見の廻館内遺物
- 飯塚市立岩字焼ノ正の石庖丁製造所址
- 飯塚市立岩字サコの一古墳
- 豊前猪位金村位登古墳
- 高良山、礪山枕付舟型磐棺
- 筑後浮羽郡福富村西山田古墳群地帯の遺蹟
- 福岡県の横穴
- 朝倉橋広庭宮遺址 (第一回)
- 太宰府出土埴埴に就て
- 西油山天福寺址
- 高良山経塚発見の一字二石経
- 五卿関係遺蹟

第十輯 (昭、一〇)

- 筑後女山神籠石
- 筑後国浮羽郡千年村徳丸塚堂古墳
- 異例の古墳
- 須恵焼に刻しある文字につきて
- 福岡県下の条里遺蹟 (其ノ一)
- 朝倉橋広庭宮遺址 (第二回)
- 御笠団印と遠賀団印
- 筑後国駿馬村宮原石層塔

○高良山中再発見の一字一石経

第十一輯 (昭、一〇)

○筑前王塚古墳

第十二輯 (昭、一二)

○筑後一条石人山古墳

○朝倉橘広庭宮遺趾

○福岡県に於ける中世の墳墓

第十三輯 (昭、一四)

○石器と土器・古墳と「副葬品」

○水繩山麓の装飾古墳

○筑前怡土履

第十四輯 (昭、一六)

○元寇史蹟(地之巻)

第十五輯 (昭、一九)

○本県に於ける有栖川宮熾仁親王御事蹟

○浮羽郡千年村橘田宝満宮の酒造石に就て

○酒壺石調査覚書

(二)名勝・天然紀念物之部

第二輯 (大、一五)

○ 鵲

○ 沖ノ島の植物

第三輯 (昭、三)

○ 英彦山の鬼杉

○ 英彦山のゲンカイツツジ

○ 本庄の樟

○ 旧亀石坊庭園

○ 千仏鐘乳洞

第四輯 (昭、四)

○ ヘラサギの調査

○ オホハクテウの調査

○ ヤマシヤウビンの調査

○ スキンホーガラウの調査

○ ツルクヒナの調査

○ 名島櫓石調査

○ 姪浜蛇岩調査

○ 小呂島植物調査

○ 斑紋竹調査

○ 小郡のサザンクワ野生状態調査

○ 南畑のサザンクワ野生状態調査

第五輯 (昭、五)

○ 八所神社社叢及安康松調査

○ ダイサギの調査

○ ツバメチドリの調査

○ ヘラサギの調査

○ 宗像郡上西郷村西法寺所在ザロンウメの調査

○ 香春岳に関する調査報告

○ 香春岳植物目録

○ 椿、なんきんざくら、げんかいつつじの調査

○ 千仏鐘乳洞の調査

○ 旧石井坊庭園遺構調査

○ 風景観賞地点としての東油山観音境内の調査

第六輯 (昭、六)

○ 三奈木村黒田男爵邸の林泉

○ 納富正巳氏邸の古苑

○ 日向神の調査

○ 長垂の巨晶花崗岩脉紅雲の調査

○ 小戸御膳立の調査

○ 小ヤマシヤウビンの調査

○ ツバメチドリの調査

○ カラスバトの調査

○ オホハクテウの調査

○ エツの調査

○ ミミカキタケ(冬虫夏草の一種)の調査

○ ビヤクシン大木の調査

第七輯 (昭、七)

- ミミカキタケの追加調査
- オオハクテウの調査
- ダイサギの調査
- 千匹塚の調査
- 福吉の含稀原素鉢床の調査
- 小石原の行者杉の調査
- 唐泊に於ける巨大な仙人掌の調査
- 村上与一郎氏邸古苑の調査
- 山門郡城内村の二古庭の調査
- 企救の浜の調査
- 附録 福岡県植物基本調査書

第八輯 (昭、八)

- 松崎桜馬場に於ける山桜並木
- 京都郡御所ヶ谷に産するヒモヅル
- 曾根村海岸のシチメンサウ群落
- 今津のハマボウ
- 若杉のホルトノキと志賀島のバクチノキ大木
- 「景勝」地としての英彦山

第九輯 (昭、九)

- 筑前相ノ島の自然景観
- 英彦山に於ける古庭園
- 千代の松原名勝の保全に就て
- 志賀島志賀神社社叢

名勝・天然紀念物之部

第十輯 (昭、一〇)

- 福岡県北海岸に分布するハマオモト
- 矢部川の樟林
- 筑前秋月のナガバヤマザクラ
- 小野村薦野天降神社境内樹木の板根
- 糸島郡野北村に開花した龍舌蘭
- 吉祥寺の青蓮花

第十一輯 (昭、一一)

- 古処山のカルスト景観
- 筑前岡松原
- 大ヶ岳におけるツクシシヤクナゲ群落
- 隠家森
- 鎮西村の桂
- 遠賀郡香月の大櫨
- 英彦山に於ける仏法僧(第一回)
- 福岡県に於いて注意すべき蟬
- 船小屋の螢
- 池ノ山の湖水と蝙蝠岩並に室山の奇勝
- 麻生池の島の植物
- つくしがやつり
- 福岡県産「すゐぜんじのり」
- 遠賀郡芦屋のハヒビヤクシン
- 光遠木
- 福岡県に於ける珍重すべき昆虫(第一報)

第十二輯 (昭、一二)

- 福岡県下の砂丘と新宮浜に於ける鳥居の埋没景
- 筑豊国境船屋山から松尾山へのカルスト景観
- 大ヶ岳山麓植物調査報告
- 筑後高良山の孟宗金明竹
- 筑前岡垣村の孟宗金明竹
- 筑前岡垣村のシャシヤンポ喬木林
- 宮川早生温州蜜柑の母樹
- 福岡県に於ける珍重すべき昆虫

第十三輯 (昭、一四)

- 豊前重箱地の鬼蓮
- 筑後御前岳及釈迦岳のつくししやくなげ群落
- 豊前大富神社の黄心樹
- 筑前春日神社の社叢
- 筑後宮陣村「將軍桜」
- 筑前粕屋郡須恵村ザロンウメ
- 豊前求菩提山及其附近鳥類一班
- 福岡県に於ける珍重すべき昆虫オホカマキリモドキ

第十四輯 (昭、一八)

- 筑後光友村の老松
- 松原寺の松
- 御塔の松
- 英彦山鳥類一班
- 珍鳥 HARTERT に就て

第十五輯 (昭、一九)

- 弥永の一里塚松
- 有毛の傘松
- 安康の松
- 筑後高良山孟宗金明竹新竹発生調査
- 観音山の合葉の松
- 福岡市浪人町のマキの巨樹
- 県社高倉神社境内の樹木
- 芥屋大門波止松原の海浜植物群落
- 豊前上野の白糸滝
- 豊前菊田のカルスト天然橋

昭和二十八年十二月二十二日発行

福岡県教育委員会

昭和四十三年九月一日覆版

福岡県文化財資料集刊行会

福岡市東光町二六五
電話 ㊦ 六三二〇